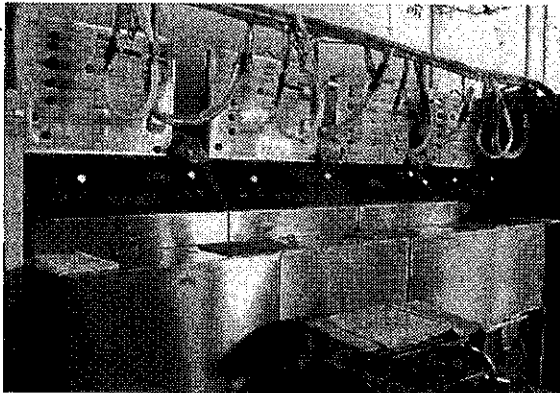


ホームメックス

# BDF事業で循環システム構築へ 廃食用油の排出元に提案拡大

廃棄物処理やビルメンテナンス事業等を展開するホームメックス(愛知県豊田市、餅原幹也社長、☎0565・33・2468)は、集めた廃食用油を自社



同社敷地内に設置しているBDF精製機

でバイオディーゼル燃料(BDF)化して排出元に供給するなど、循環型の取り組みを拡大させる。廃棄物の収集運搬や処理業務にと

りメンテナンス業、飲食事業など順調に業務拡大を図り、2000年開設の「矢並リサイクルセンター」(同市)ではPET・発泡スチロール・プラ・缶・瓶のリサイクルを手掛けている。

BDF製造事業については、自社に1日当たり100kgの精製機を新設して05年12月から着手。翌年には保有パッカー車の燃料として活用を開始、精製機の数も4台に増やした。現在は、顧客の社員食堂等から出るものをはじめ、豊田市・日進市の各家庭から出る廃食用油を1カ月当た

り1万5000kgほど集めている。精製したBDFは、社内利用や販売の他、排出元の車両燃料に活用される事例も増えている。今後は、このように排出元やその関連会社へBDFを戻す仕組み構築に力を入れる。

ム構築とといったことも強化させたい考えだ。

また、収集運搬を担う食品リサイクル事業についても、ループの構築を見据える。同社は現在、名古屋市や豊田市の各家庭から出る廃食用油を1カ月当た

り1万5000kgほど集めている。精製したBDFは、社内利用や販売の他、排出元の車両燃料に活用される事例も増えている。今後は、このように排出元やその関連会社へBDFを戻す仕組み構築に力を入れる。

このシステム構築への流れは、同社が近年進めている「環境パートナー事業」の一環という。顧客の廃棄物に対するさまざまなニーズを受け、各種セミナーの開催、分別説明会、計量器付き車両による排出量の見える化などを積極的に実施。さらに廃棄物減量から処理物の利活用までを含めた提案を行うことで、顧客満足度の向上と環境への配慮を同時に実現していく。

1970年の創業。廃棄物処理や収集運搬業、下水道維持管理業、ビ

ルメンテナンス業、飲食事業など順調に業務拡大を図り、2000年開設の「矢並リサイクルセンター」(同市)ではPET・発泡スチロール・プラ・缶・瓶のリサイクルを手掛けている。

BDF製造事業については、自社に1日当たり100kgの精製機を新設して05年12月から着手。翌年には保有パッカー車の燃料として活用を開始、精製機の数も4台に増やした。現在は、顧客の社員食堂等から出るものをはじめ、豊田市・日進市の各家庭から出る廃食用油を1カ月当た

り1万5000kgほど集めている。精製したBDFは、社内利用や販売の他、排出元の車両燃料に活用される事例も増えている。今後は、このように排出元やその関連会社へBDFを戻す仕組み構築に力を入れる。